

査読論文

実習前評価システムに関する一つの考察Ⅶ

杉 本 大 輔・櫻 井 美帆子・畠 山 明 子

星槎道都大学研究紀要

第 4 号

2023 年

査読論文

実習前評価システムに関する一つの考察Ⅶ

杉本大輔・櫻井美帆子・畠山明子

要約

本学が毎年実施している実習前評価システムの2022年度の実施報告と、その結果分析と分析結果から導き出された本学のソーシャルワーク演習の教育方法の課題を考察する。

本稿では本学社会福祉学科が毎年実施している実習前評価システム OSCE の2022年度における実施結果報告とその分析、及び分析結果から導き出される本学ソーシャルワーク教育2年時におけるソーシャルワーク演習の教育課題を考察する。例年、当該システムは夏季休業時の集中講義によって実施してきたが、今年度よりカリキュラムが変更になり例年と異なり、本学第2クォーターの「ソーシャルワーク演習Ⅰ」（金曜日1・2講目）内で実施することとなった¹。昨年度までのコロナ禍の影響による変則的講義形態での実施は本年度は皆無であったが、例年より1か月半ほど早く実施するということが、昨年度よりは実施期間に余裕がなかった。ゆえに今年度から実施する当該システムの実施結果と昨年度までの結果とは必然的に実施背景が異なるが、実施期間と背景は今年度より統一されることにより、今年度より数年の実施を重ねることにより、精緻な比較研究が可能になり、より確実な教育課題の抽出が可能になると信じる。

1, 2022年度星槎道都大学社会福祉学科実習前評価システム（OSCE）実施要領

7月1日の「ソーシャルワーク演習Ⅰ」において、本年度の実習前評価システムの実施を当該科目受講学生にアナウンス。実施日は7月22日。当該科目において、面接技法については各グループともに6月中には終了しており、面接技法の復習には十分な期間があると考えた。なお昨年度までは実施の前日に復習として面接技法に関するDVD学習を実施していたが、今年度は時間が取れず実施せず。7月1日のアナウンス時に評価者評価と利用者評価の評価プリントを配布。面接場面は「地域包括支援センターにおけるインテーク面接」。畠山が利用者役、杉本が評価者として全学生の当該システムを実施。櫻井は控えの学生の指導を行った。面接時間は5分間。当日はコロナ禍の影響を考慮し、面接者、利用者、評価者ともにマスクを着用し、面接席にはアクリル板を設置した。

評価者評価 (5段階)						
1, クライアントを迎え入れる態度	言葉	5	4	3	2	1
	動作	5	4	3	2	1
2, 椅子の勧め方	言葉	5	4	3	2	1
	仕種	5	4	3	2	1
	どちらが先に座るか	5	4	3	2	1
3, 対面位置のとり方		5	4	3	2	1
4, 初めのあいさつ	言葉	5	4	3	2	1
5, 自己紹介	所属	5	4	3	2	1
	職名	5	4	3	2	1
	役割	5	4	3	2	1
6, 倫理的配慮	守秘義務の伝達	5	4	3	2	1
	メモを取ることの断り	5	4	3	2	1
7, 主訴の聞き取り	切り出し方	5	4	3	2	1
8, 質問方法の的確さ (閉ざされた質問・開かれた質問)		5	4	3	2	1
9, 身体技法	傾聴の姿勢	5	4	3	2	1
	うなずき	5	4	3	2	1
	手や足を組んでいないか	5	4	3	2	1
10, 視線	相手の目を見ているか	5	4	3	2	1
	きょろきょろしていないか	5	4	3	2	1
	相手の動きを追っているか	5	4	3	2	1
11, 声音の様子	明確さ	5	4	3	2	1
	速さ	5	4	3	2	1
	抑揚	5	4	3	2	1
12, 主訴の要約は的確であったか		5	4	3	2	1
クライアント評価 (5段階)						
1, クライアントは気持ちよく迎えられたか		5	4	3	2	1
2, クライアントはワーカーの役割をよく整理できたか		5	4	3	2	1
3, クライアントは滑らかに相談関係に入れたか		5	4	3	2	1
4, クライアントは相談事を十分に聞かれたと感じたか		5	4	3	2	1
5, クライアントは相談事を十分に話したと感じられたか		5	4	3	2	1
6, クライアントは相談事を十分に理解されたと感じたか		5	4	3	2	1
得点の評価内容						
5…非常によくできている						
4…よくできている						
3…できている						
2…あまりできていない						
1…全くできていない						

2, 評価結果

評価者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
迎え入れる態度 言葉	28	2.00	3.00	5.00	4.5357	.74447	.554
迎え入れる態度 動作	28	4.00	1.00	5.00	4.3571	1.09593	1.201
椅子の勧め方 言葉	28	4.00	1.00	5.00	4.1786	1.21879	1.485
椅子の勧め方 仕種	28	4.00	1.00	5.00	4.0000	1.12217	1.259
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	28	4.00	1.00	5.00	4.3571	1.19301	1.423
対面位置のとり方	28	4.00	1.00	5.00	4.6429	1.06160	1.127
初めのあいさつ 言葉	28	3.00	2.00	5.00	4.5000	.74536	.556
自己紹介 所属	28	4.00	1.00	5.00	4.1786	1.49204	2.226
自己紹介 職名	28	4.00	1.00	5.00	4.0714	1.46385	2.143
自己紹介 役割	28	4.00	1.00	5.00	2.8571	1.67142	2.794
倫理的配慮 守秘義務の伝達	28	4.00	1.00	5.00	4.0357	1.50264	2.258
倫理的配慮 メモを取ることの断り	28	2.00	3.00	5.00	4.7143	.65868	.434
主訴の聞き取り 切り出し方	28	4.00	1.00	5.00	3.6429	.91142	.831
質問の方法的的確さ	28	4.00	1.00	5.00	2.8571	1.17739	1.386
身体技法 傾聴の姿勢	28	3.00	2.00	5.00	4.3571	.82616	.683
身体技法 うなずき	28	3.00	2.00	5.00	4.5000	.83887	.704
身体技法 手や足を組んでいないか	28	1.00	4.00	5.00	4.9643	.18898	.036
視線 相手の目を見ているか	28	3.00	2.00	5.00	4.6071	.78595	.618
視線 きよろきよろしていないか	28	3.00	2.00	5.00	4.5714	.79015	.624
視線 相手の動きを追っているか	28	3.00	2.00	5.00	4.6071	.78595	.618
声音の様子 明確さ	28	4.00	1.00	5.00	3.1071	1.34272	1.803
声音の様子 速さ	28	4.00	1.00	5.00	3.2143	1.31535	1.730
声音の様子 抑揚	28	4.00	1.00	5.00	3.0000	1.15470	1.333
主訴の要約は的確であったか	28	4.00	1.00	5.00	2.2500	1.17458	1.380
有効なケースの数 (リストごと)	28						

平均値の比較を見ると、昨年度平均値 5.0000 だった「身体技法 手や足を組んでいないか」は今年度 4.9643、最小値が 4.0000 だったことを考えると、ほぼ全員が 5.0000 だったとみてよい。他にも平均値 4.5000 以上を出している項目は「倫理的配慮 メモを取ることの断り」が 4.7143、「対面位置のとり方」が 4.6429、「視線 相手の動きを追っているか」が 4.6074、「視線 相手の目を見ているか」が 4.6071、「迎え入れる態度 言葉」が 4.5357、「初めのあいさつ 言葉」と「身体技法 うなずき」が 4.5000、の 6 項目となっている。高得点の項目数は昨年と同様だが、昨年は後半の身体技法と視線に高得点が集中しているのに対し、今年度は高得点項目は間隔が広がっている。昨年度はコロナ禍での実施、しかも前期終了から 1 か月以上たつたの実施であったことから、身体技法に注意が行きがちになっていたのではないかと考える。今年度は前期内に、しかも講義時間中の実施ということからインテーク面接における最重要項目に高得点が集中したのではないかと考える。平均値 4.0000 以

上の項目は「迎え入れる態度 動作」「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 仕種」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「自己紹介 所属」「自己紹介 職名」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」「身体技法 傾聴の姿勢」と 17 項目に及んでおり、昨年の 10 項目と比べると大幅に増えており一昨年度の 16 項目をも上回っている。全体的に昨年度より得点はアップしているが「声音の様子 明確さ」「声音の様子 速さ」「声音の様子 抑揚」は昨年度より若干おちている。「声」に関する項目は一昨年度来、得点が減少傾向にあるが、これはコロナ対策のためにマスクやアクリル板を設置していること、また、学内でのコロナに対するマナーが徹底していることの影響と考えられる。得点の散らばりについては、今年度もすべての項目で最大値は 5.0000 であるが最小値が 1.0000 の項目が 15 項目、昨年度の 12 項目から 3 項目増えていることから、個々の学生の習熟度がさらに広がっていると考える²。

利用者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
気持ちよく迎えられたか	28	2.00	3.00	5.00	3.9643	.63725	.406
ワーカーの役割をよく理解できたか	28	2.00	3.00	5.00	3.7857	.73822	.545
滑らかに相談関係に入れたか	28	3.00	2.00	5.00	3.6786	.77237	.597
相談事を十分に聞かれたと感じたか	28	3.00	2.00	5.00	3.1786	.77237	.597
相談事を十分に話したと感じたか	28	3.00	2.00	5.00	3.2857	.76290	.582
相談事を十分に理解されたと感じたか	28	3.00	2.00	5.00	2.9286	.81325	.661
有効なケースの数 (リストごと)	28						

利用者評価においても大きな違いが見られた。まず「ワーカーの役割をよく理解できたか」が3.7857 (昨年度2.7143) と、1ポイント上昇している。逆に「相談事を十分に理解されたと感じたか」が2.9286 (昨年度3.6190)と、8ポイント近く減少している。また、分散、標準偏差共に昨年度より低くなっていることから、点数のバラツキが小さいことがわかる³。

3, 因子分析

今回の因子分析においては全項目間における共通性は見いだせなかった。したがって、各項目の分散の大きさと、社会福祉学科2年時における面接技法の学習課題として優先されるべき項目を考察し「自己紹介 所属」「自己紹介 職名」「初めのあいさつ 言葉」「質問方法の的確さ」「迎え入れる態度 動作」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」「視線 相手の目を見ているか」「主訴の要約は的確であったか」「主訴の聞き取り 切り出し方」「自己紹介 役割」「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 仕種」「対面位置のとり方」「身体技法 傾聴の姿勢」「声音の様子 明確さ」「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」の17項目を分析した。なお、分析方法は主因子分析を用いた。昨年までは分析項目も多かったことから最尤法を用いていたが、今年度より分析項目を絞って実施することから当該分析法を用いた。

表1 KMO および Bartlett の検定

Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測定	.575	
Bartlett の球面性検定	近似カイ2乗	302.880
	自由度	136
	有意確率	.000

表2 共通性

	初期	因子抽出後
椅子の勧め方 言葉	.887	.870
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.544	.497
対面位置のとり方	.667	.362
初めのあいさつ 言葉	.721	.550
自己紹介 所属	.971	.920
自己紹介 役割	.611	.548
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.832	.651
主訴の聞き取り 切り出し方	.576	.515
質問の方法の的確さ	.816	.788
身体技法 傾聴の姿勢	.779	.676
視線 相手の目を見ているか	.815	.658
声音の様子 明確さ	.578	.509
主訴の要約は的確であったか	.799	.466
迎え入れる態度 動作	.820	.694
倫理的配慮 メモを取ることの断り	.710	.928
椅子の勧め方 仕種	.848	.722
自己紹介 職名	.972	.901

因子抽出法：主因子法

表3 説明された分散の合計

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	5.127	30.158	30.158	4.817	28.336	28.336	2.929	17.232	17.232
2	2.936	17.272	47.430	2.656	15.622	43.958	2.825	16.618	33.850
3	2.216	13.035	60.465	1.877	11.039	54.997	2.785	16.383	50.233
4	1.355	7.969	68.434	1.108	6.516	61.513	1.464	8.610	58.842
5	1.169	6.877	75.311	.797	4.688	66.201	1.251	7.359	66.201
6	.996	5.857	81.168						
7	.825	4.853	86.021						
8	.551	3.240	89.261						
9	.448	2.632	91.894						

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
10	.346	2.033	93.926						
11	.324	1.903	95.830						
12	.265	1.556	97.386						
13	.163	.961	98.347						
14	.140	.825	99.172						
15	.080	.468	99.640						
16	.047	.276	99.917						
17	.014	.083	100.000						

因子抽出法：主因子法

表 4 因子行列^a

	因子				
	1	2	3	4	5
自己紹介 所属	.748	-.355	-.381	-.288	-.085
自己紹介 職名	.744	-.341	-.384	-.280	-.068
初めのあいさつ 言葉	.718	.171	.058	.016	-.043
質問の方法の的確さ	.704	-.188	.472	-.186	.024
迎え入れる態度 動作	.681	.360	-.259	.143	.111
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.617	-.339	-.164	.351	-.067
視線 相手の目を見ているか	.569	.489	.201	.044	-.230
主訴の要約は的確であったか	.532	-.194	.377	-.059	-.008
主訴の聞き取り 切り出し方	.512	.075	-.386	-.189	-.249
自己紹介 役割	.462	-.311	.115	-.172	.441
椅子の勧め方 言葉	.281	.731	-.441	.084	.236
椅子の勧め方 仕種	.385	.696	-.144	.210	.161
対面位置のとり方	.334	-.357	.321	.052	.131
身体技法 傾聴の姿勢	.443	.435	.525	-.075	-.097
声音の様子 明確さ	.379	.117	.504	.260	.170
倫理的配慮 メモを取ることに断り	.286	-.480	-.091	.727	-.280
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.080	-.382	-.250	.203	.490

因子抽出法：主因子法

a. 5 個の因子の抽出が試みられた。25 回以上の反復が必要です。(収束基準 = .004)。抽出が終了した。

表 5 回転後の因子行列^a

	因子				
	1	2	3	4	5
質問の方法の的確さ	.825	.321	.004	.016	-.066
主訴の要約は的確であったか	.637	.215	-.026	.105	-.044
声音の様子 明確さ	.611	-.221	.251	.150	-.026
身体技法 傾聴の姿勢	.580	-.055	.356	-.132	-.438
対面位置のとり方	.523	.078	-.159	.166	.174
自己紹介 役割	.513	.275	.002	-.095	.448
初めのあいさつ 言葉	.442	.372	.429	.129	-.121
自己紹介 所属	.220	.909	.048	.127	.165
自己紹介 職名	.216	.897	.065	.122	.175
主訴の聞き取り 切り出し方	-.031	.648	.263	.063	-.145
椅子の勧め方 言葉	-.232	.108	.883	-.158	.031
椅子の勧め方 仕種	.038	-.011	.844	-.021	-.091
迎え入れる態度 動作	.177	.366	.713	.138	.040
視線 相手の目を見ているか	.371	.157	.533	.057	-.457
倫理的配慮 メモを取ることに断り	.083	.091	-.091	.946	.099
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.271	.414	.133	.593	.191
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.007	.061	-.013	.174	.680

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法^a

a. 6 回の反復で回転が収束した。

表6 因子変換行列

因子	1	2	3	4	5
1	.606	.619	.443	.231	.005
2	-.155	-.267	.772	-.349	-.432
3	.752	-.518	-.247	-.104	-.308
4	-.054	-.459	.281	.831	.134
5	.201	-.258	.260	-.352	.837

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

因子の解釈

第1因子

「質問方法的確さ」「主訴の要約は的確であったか」「声音の様子 明確さ」「身体技法 傾聴の姿勢」「対面位置のとり方」「自己紹介 役割」「初めのあいさつ 言葉」

↓

面接主要技法

第2因子

「自己紹介 所属」「自己紹介 職名」「主訴の聞き取り 切り出し方」

↓

言語的技法

第3因子

「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 仕種」「迎え入れる態度 動作」「視線 相手の目を見ているか」

↓

信頼関係形成

第4因子

「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」

↓

倫理的配慮

第5因子

「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」 → 対人配慮

主因子分析により今年度のOSCE実施結果における因子構造を検討した。表2の全ての項目の因子抽出後数値により、この17項目が因子分析に関与していると判断する。また、表3の17項目の相関係数行列の固有値は5.127, 2.936, 2.216, 1.355, 1.169と減衰し、第5因子までの累積説明率は75.311%であった。これにより5因子解を採用することにした。5因子の累積分散説明率は66.201%である。

表5により、第1因子は「質問的方法的確さ」「主訴

の要約は的確であったか」「声音の様子 明確さ」「身体技法 傾聴の姿勢」「対面位置のとり方」「自己紹介 役割」「初めのあいさつ 言葉」という、面接における質問、身体技法が網羅されていることか「面接主要技法」因子、第2因子は「自己紹介 所属」「自己紹介 職名」「主訴の聞き取り 切り出し方」という面接開始時と面接中の重要な言語的技法が組み込まれていることから「言語的技法」因子、第3因子は「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 仕種」「迎え入れる態度 動作」など、面接前のクライアントへの配慮と面接中の身体技法に関連する項目から「信頼関係形成」因子、第4因子は「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」という倫理的配慮に関わることから「倫理的配慮」因子、第5因子は「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」一つであることから、「対人配慮」因子とした。

4. 分析

昨年度の抽出因子が「クライアント入室時の信頼関係形成」「面接開始時における配慮」「質問方法的確さ」「面接開始時の自己紹介の重要性」「主訴の要約」の5因子であったのに対し、今年度は「面接主要技法」「言語的技法」「信頼関係形成」「倫理的配慮」「対人配慮」と同じく5因子が抽出された。昨年度は前期講義終了から約1か月半後にOSCEを実施、また面接技法の復習として前日に面接技法のDVD教材（講義中にも学習教材として活用していたもの）の見直しを行ったが、今年度は前期講義開講中に行ったこともあり、昨年度とは少々異なる傾向が観察された。昨年度は各因子内において身体技法と面接中核技法（質問によりクライアントの主訴を引き出す技法と定義する。今回の項目では「主訴の要約は的確であったか」「質問技法的的確さ」「主訴の聞き取り 切り出し方」はこれにあたる。）が分離していたが、今年度は第1因子のように身体技法と中核技法が関連した因子が抽出された。また、記述統計においても例年の本学の傾向である身体技法に高得点が集中した昨年度までと比較しても、今年度は高得点の領域が広がっており、面接の中核技法の得点も上昇している。学習効果という

面でいえば『ソーシャルワーク演習』という講義内で学習した内容が記憶に新しいうちに実施したことにより、より確実に学生たちが面接技法を習得するという機能があったのではないかと考察する。講義中におけるOSCEの取り組みは本年度が最初であるが、面接技法の習得と学習内容のフィードバックが速やかに行えるという潜在的機能が働いたのではないかとこの考察も可能である。来年度からも講義中の実施が必須となるが、学習面におけるより高い効果が期待できると考える。

5. 今後の展望

昨年度、一昨年度、そして今年度の本学2年生における『ソーシャルワーク演習』(旧名『相談援助演習』)の学習効果は一律的であったとはいえない。一昨年度の学生はコロナ禍の始まりだったとはいえ1年時は通常の講義体制であった。昨年度の学生は1年時よりコロナ禍の影響を受けリモート講義を余儀なくされ、また当該年次においても5月いっぱいまでリモート講義を余儀なくされた。今年度の学生は1年時の前期前半(第1クォーター)はリモート講義を余儀なくされたが、それ以降は全て対面講義であり、いわゆる対人関係を形成する時間的余裕と普段の生活における対面時間も確保されていた。昨年度の学生、つまり現在の3年生は旧カリキュラムにおける相談援助実習を今年度行っている。その実習評価はまだ出ていないが、現2年生や4年生と比べて対面講義の時間減というハンデを抱えている。それは昨年度のOSCEの結果にも如実に表れていた(身体技法と中核技法の分離)。昨年度の学生(現3年生)については、各領域における相談援助実習終了後の振り返りと事後指

導の徹底、特に生活施設に実習に言った学生に対するクライアントとの関係形成の模様を詳細に聞き取り、次の実習につなげることが思案される⁴。本年より、本学の実習前評価システム実施は、前期講義内で行うこととなった。現2年生は新カリキュラムの元でのソーシャルワーク実習を来年度、第1号として履修することになる。当該システムの可能性として本学では2年時の学習効果の確認と学習課題の抽出という目的で実施してきたが、240時間実習の実施という新カリキュラム下では2年時のみならず、180時間実習と60時間実習の合間に再度行うセカンドOSCEのような機能開発も視野に入れての取り組みも検討する必要があると考える。

註記)

- 1, 昨年度より本学は厚生労働省指示によるソーシャルワーク教育新カリキュラムが組まれており、本年度2年生は新カリキュラム受講の2年目にあたる。当該科目は旧カリキュラムにおける『相談援助演習』にあたり、担当者は本システムの実施教員である櫻井・畠山・杉本の3名である。上記3名が各々10~12名のグループを担当する。各グループ共通に使用するテキストは『ソーシャルワーク演習ワークブック』(ソーシャルワーク演習教材開発研究会編 編集代表者 相沢譲治・植戸貴子 株式会社みらい 2008年)
- 2, 昨年度の各項目の得点については、杉本・上原「実習前評価システムに関する一つの考察Ⅵ」星槎道都大学紀要第3号P69を参照。今年度の評価者評価の探索的分析は以下の通り。

処理したケースの要約

	ケース					
	有効数		欠損値		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
迎え入れる態度 動作	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
迎え入れる態度 言葉	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
椅子の勧め方 言葉	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
椅子の勧め方 仕種	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
対面位置のとり方	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
初めのあいさつ 言葉	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
自己紹介 所属	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
自己紹介 職名	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
自己紹介 役割	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
倫理的配慮 守秘義務の伝達	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
倫理的配慮 メモを取ることの断り	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
主訴の聞き取り 切り出し方	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%

	ケース					
	有効数		欠損値		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
質問の方法の的確さ	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
身体技法 傾聴の姿勢	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
身体技法 うなずき	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
身体技法 手や足を組んでいないか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
視線 相手の目を見ているか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
視線 きょろきょろしていないか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
視線 相手の動きを追っているか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
声音の様子 明確さ	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
声音の様子 速さ	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
声音の様子 抑揚	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
主訴の要約は的確であったか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%

記述統計

		統計量	標準誤差	
迎え入れる態度 動作	平均値	4.3571	.20711	
	平均値の95%信頼区間	下限	3.9322	
		上限	4.7821	
	5%トリム平均	4.4921		
	中央値	5.0000		
	分散	1.201		
	標準偏差	1.09593		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-1.698	.441	
	尖度	2.240	.858	
	迎え入れる態度 言葉	平均値	4.5357	.14069
平均値の95%信頼区間		下限	4.2470	
		上限	4.8244	
5%トリム平均		4.5952		
中央値		5.0000		
分散		.554		
標準偏差		.74447		
最小値		3.00		
最大値		5.00		
範囲		2.00		
4分位範囲		1.00		
歪度		-1.291	.441	
尖度		.182	.858	
椅子の勧め方 言葉		平均値	4.1786	.23033
	平均値の95%信頼区間	下限	3.7060	
		上限	4.6512	
	5%トリム平均	4.3095		
	中央値	5.0000		
	分散	1.485		
	標準偏差	1.21879		
	最小値	1.00		

		統計量	標準誤差	
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	- 1.556	.441	
	尖度	1.663	.858	
椅子の勧め方 仕種	平均値	4.0000	.21207	
	平均値の95%信頼区間	下限	3.5649	
		上限	4.4351	
	5%トリム平均	4.0952		
	中央値	4.0000		
	分散	1.259		
	標準偏差	1.12217		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	2.00		
	歪度	- .847	.441	
	尖度	.078	.858	
	椅子の勧め方 どちらが先に座るか	平均値	4.3571	.22546
平均値の95%信頼区間		下限	3.8945	
		上限	4.8197	
5%トリム平均		4.4921		
中央値		5.0000		
分散		1.423		
標準偏差		1.19301		
最小値		1.00		
最大値		5.00		
範囲		4.00		
4分位範囲		1.00		
歪度		- 1.749	.441	
尖度		1.808	.858	
対面位置のとり方		平均値	4.6429	.20062
	平均値の95%信頼区間	下限	4.2312	
		上限	5.0545	
	5%トリム平均	4.8095		
	中央値	5.0000		
	分散	1.127		
	標準偏差	1.06160		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	- 2.805	.441	
	尖度	6.620	.858	
	初めのあいさつ 言葉	平均値	4.5000	.14086
平均値の95%信頼区間		下限	4.2110	
		上限	4.7890	
5%トリム平均		4.5952		
中央値		5.0000		
分散		.556		
標準偏差	.74536			

		統計量	標準誤差
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	- 1.734	.441
	尖度	3.494	.858
	自己紹介 所属	平均値	4.1786
	平均値の95%信頼区間	下限	3.6000
		上限	4.7571
	5%トリム平均	4.3095	
	中央値	5.0000	
	分散	2.226	
	標準偏差	1.49204	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	- 1.553	.441
	尖度	.761	.858
	自己紹介 職名	平均値	4.0714
	平均値の95%信頼区間	下限	3.5038
		上限	4.6391
	5%トリム平均	4.1905	
	中央値	5.0000	
	分散	2.143	
	標準偏差	1.46385	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	- 1.429	.441
	尖度	.548	.858
	自己紹介 役割	平均値	2.8571
	平均値の95%信頼区間	下限	2.2090
		上限	3.5053
	5%トリム平均	2.8413	
	中央値	3.0000	
	分散	2.794	
	標準偏差	1.67142	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	3.75	
	歪度	.089	.441
	尖度	- 1.724	.858
	倫理的配慮 守秘義務の伝達	平均値	4.0357
	平均値の95%信頼区間	下限	3.4531
		上限	4.6184
	5%トリム平均	4.1508	
	中央値	5.0000	
	分散	2.258	

		統計量	標準誤差	
	標準偏差	1.50264		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	2.00		
	歪度	- 1.264	.441	
	尖度	.047	.858	
	倫理的配慮 メモを取ることの断り	平均値	4.7143	.12448
	平均値の95%信頼区間	下限	4.4589	
		上限	4.9697	
	5%トリム平均	4.7937		
	中央値	5.0000		
	分散	.434		
	標準偏差	.65868		
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	- 2.136	.441	
	尖度	3.169	.858	
	主訴の聞き取り 切り出し方	平均値	3.6429	.17224
		平均値の95%信頼区間	下限	3.2894
上限			3.9963	
	5%トリム平均	3.6984		
	中央値	4.0000		
	分散	.831		
	標準偏差	.91142		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	- 1.090	.441	
	尖度	1.652	.858	
	質問の方法的確かさ	平均値	2.8571	.22251
		平均値の95%信頼区間	下限	2.4006
上限			3.3137	
	5%トリム平均	2.8571		
	中央値	3.0000		
	分散	1.386		
	標準偏差	1.17739		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	2.00		
	歪度	- .144	.441	
	尖度	- 1.197	.858	
	身体技法 傾聴の姿勢	平均値	4.3571	.15613
		平均値の95%信頼区間	下限	4.0368
上限			4.6775	
	5%トリム平均	4.4365		
	中央値	5.0000		

		統計量	標準誤差	
	分散	.683		
	標準偏差	.82616		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	- 1.204	.441	
	尖度	.981	.858	
身体技法 うなずき	平均値	4.5000	.15853	
	平均値の95%信頼区間	下限	4.1747	
上限		4.8253		
	5%トリム平均	4.5952		
	中央値	5.0000		
	分散	.704		
	標準偏差	.83887		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	- 1.622	.441	
	尖度	1.844	.858	
	身体技法 手や足を組んでいないか	平均値	4.9643	.03571
		平均値の95%信頼区間	下限	4.8910
上限	5.0376			
	5%トリム平均	5.0000		
	中央値	5.0000		
	分散	.036		
	標準偏差	.18898		
	最小値	4.00		
	最大値	5.00		
	範囲	1.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	- 5.292	.441	
	尖度	28.000	.858	
	視線 相手の目を見ているか	平均値	4.6071	.14853
		平均値の95%信頼区間	下限	4.3024
上限	4.9119			
	5%トリム平均	4.7143		
	中央値	5.0000		
	分散	.618		
	標準偏差	.78595		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	.75		
	歪度	- 2.107	.441	
	尖度	3.982	.858	
	視線 きょろきょろしていないか	平均値	4.5714	.14932
		平均値の95%信頼区間	下限	4.2650
上限	4.8778			
	5%トリム平均	4.6746		

		統計量	標準誤差
	中央値	5.0000	
	分散	.624	
	標準偏差	.79015	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	- 1.950	.441
	尖度	3.416	.858
	視線 相手の動きを追っているか	平均値	4.6071
	平均値の95%信頼区間	下限	4.3024
		上限	4.9119
	5%トリム平均	4.7143	
	中央値	5.0000	
	分散	.618	
	標準偏差	.78595	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	.75	
	歪度	- 2.107	.441
	尖度	3.982	.858
声音の様子 明確さ	平均値	3.1071	.25375
	平均値の95%信頼区間	下限	2.5865
		上限	3.6278
	5%トリム平均	3.1190	
	中央値	3.0000	
	分散	1.803	
	標準偏差	1.34272	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	2.00	
	歪度	.088	.441
	尖度	- 1.210	.858
声音の様子 速さ	平均値	3.2143	.24858
	平均値の95%信頼区間	下限	2.7042
		上限	3.7243
	5%トリム平均	3.2381	
	中央値	3.0000	
	分散	1.730	
	標準偏差	1.31535	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	2.00	
	歪度	- .111	.441
	尖度	- 1.070	.858
声音の様子 抑揚	平均値	3.0000	.21822
	平均値の95%信頼区間	下限	2.5523
		上限	3.4477

		統計量	標準誤差
	5%トリム平均	3.0000	
	中央値	3.0000	
	分散	1.333	
	標準偏差	1.15470	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	2.00	
	歪度	.311	.441
	尖度	-.554	.858
主訴の要約は的確であったか	平均値	2.2500	.22197
	平均値の95%信頼区間	下限	1.7945
上限		2.7055	
	5%トリム平均	2.1825	
	中央値	2.0000	
	分散	1.380	
	標準偏差	1.17458	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	2.00	
	歪度	.655	.441
	尖度	-.489	.858

3, 昨年度の利用者評価の各項目の得点は杉本・上原「前掲論文」70P 参照。なお, 今年度から実施時期をずらしたことにより, 利用者評価においても各項目の

探索的分析の結果を以下に提示するにとどめる。今後, 時期を同じくした OSCE 実施により, 利用者評価, 評価者評価の年度別分析を加えていきたい。

処理したケースの要約

	ケース					
	有効数		欠損値		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
気持ちよく迎えられたか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
ワーカーの役割をよく理解できたか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
滑らかに相談関係に入れたか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
相談事を十分に聞かれたと感じたか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
相談事を十分に話したと感じたか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%
相談事を十分に理解されたと感じたか	28	100.0%	0	0.0%	28	100.0%

記述統計

		統計量	標準誤差
気持ちよく迎えられたか	平均値	3.9643	.12043
	平均値の95%信頼区間	下限	3.7172
上限		4.2114	
	5%トリム平均	3.9603	
	中央値	4.0000	
	分散	.406	
	標準偏差	.63725	
	最小値	3.00	
	最大値	5.00	

		統計量	標準誤差	
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	.027	.441	
	尖度	-.295	.858	
ワーカーの役割をよく理解できたか	平均値	3.7857	.13951	
	平均値の95%信頼区間	下限	3.4995	
上限		4.0720		
	5%トリム平均	3.7619		
	中央値	4.0000		
	分散	.545		
	標準偏差	.73822		
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	.370	.441	
	尖度	-1.014	.858	
	滑らかに相談関係に入れたか	平均値	3.6786	.14596
		平均値の95%信頼区間	下限	3.3791
	上限		3.9781	
	5%トリム平均	3.6825		
	中央値	4.0000		
	分散	.597		
	標準偏差	.77237		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	.127	.441	
	尖度	-.427	.858	
	相談事を十分に聞かれたと感じたか	平均値	3.1786	.14596
		平均値の95%信頼区間	下限	2.8791
	上限		3.4781	
	5%トリム平均	3.1429		
	中央値	3.0000		
	分散	.597		
	標準偏差	.77237		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	.75		
	歪度	.711	.441	
	尖度	.799	.858	
	相談事を十分に話したと感じたか	平均値	3.2857	.14417
		平均値の95%信頼区間	下限	2.9899
	上限		3.5815	
	5%トリム平均	3.2619		
	中央値	3.0000		
	分散	.582		
	標準偏差	.76290		

		統計量	標準誤差
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	.528	.441
	尖度	.378	.858
	相談事を十分に理解されたと感じたか	平均値	2.9286
	平均値の95%信頼区間	下限	2.6132
		上限	3.2439
	5%トリム平均	2.8810	
	中央値	3.0000	
	分散	.661	
	標準偏差	.81325	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	.581	.441
	尖度	-.012	.858

4. 本学においては旧カリキュラムでは、3年時に相談援助実習を修了した者で希望する者は4年時に精神保健福祉士実習、あるいはスクールソーシャルワーカー実習を履修することができる。いずれの実習を

履修するにしても3年時に相談援助実習を終了することが前提となる。よって、相談援助実習終了から各々の実習に移行する機関において対人関係における学生個々の課題を十分に検証する必要がある。

One Study Considered with the Estimational System for Spcial Work Practice VII

SUGIMOTO Daisuke SAKURAI Mihoko HATAKEYAMA Akiko

Abstract

In this paper, we report on the 2022 pre-practice evaluation system that our university implements every year, analyze the results, present educational issues considered from the analysis, and discuss educational methods. In previous years, this system was implemented during the intensive lectures during the summer vacation after the end of the first semester. Therefore, it is difficult to compare the result analysis of this year's shell system with last year's one. think it will be clearer.